

身近な相談者とその他の支援のつながりによる、早期快復の事例  
(自立支援協議会専門部会での、当事者からの発言を要約)

1 初期症状

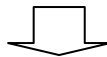
- ・ 住み込みで新聞配達をしながら大学へ通っていた。
- ・ ある日、自分の悪口が聞こえるようになった。
- ・ 病気の自覚はなかったが、部屋に閉じこもりがちになった。

2 最初の気づきとつなぎ

- ・ 勤め先の所長が、いつもと様子が違うことに気づいた。
- ・ 所長には、幻聴があることが言えた。
- ・ 専門的ではないが多少の情報（研修受講等があったため、発症1週間ほどで病院受診を促し、同行した。

3 2度目のつなぎ

- ・ 早期治療のため、快復に向かうのが早かった。
- ・ 将来精神疾患にかかわることがしたいと思うようになり、ボランティアセンターを訪ねた。
- ・ そこで、障害者地域生活支援センターを紹介され、いろいろなプログラムや退院促進サポーターとしてのかかわりを持てた。



復学への見通しが立った

4 相談までのハードル

- ・ 相談しやすいのは身近なひと
- ・ 公的な相談窓口は知らなかった。
- ・ 自分の症状が相談支援に該当することかどうか、わからなかった。

5 相談支援のポイント

- ・ 身近な相談者に情報がいきわたること。
- ・ それぞれの機関の特徴を活かし、連携しながら支援すること。